

coming home

Dance Medium

Butoh Performance |Revival|

43th Dance Critics Association Award

Awarded to Seisaku & Yuri Nagaoka for the choreography, direction and performance of Dance Medium's Kaeru – a work which responded deeply to the impact of the Tohoku earthquake on March 11, 2011.

「リープ」 Dance Medium 舞踏公演

2011年、3.11後の闇と光を凝縮した問題作 第43回舞踊批評家協会賞 を受賞、待望の再演!

帰ル、何処へ

それは命が生まれでた所かもしれない、 それは至るべき未来かもしれない、 それは存在に根差した生の一歩を踏み出す この瞬間かもしれない。

帰ルべき所へ。

人間はけして独りぼっちにはなれない。 生きとし生ける者の命は全て祝福されている。 生きとし生ける者達と共に、 私達の命を支えてくれた今は亡き人達と共に、 これから生まれでるであろう者達と共に、 帰りましょう、生命の肯定へ。 死や崩壊すら再生への始まりにすぎない。

・・・しかしながら、大災害、そして今も収束せぬ 原発事故をきっかけに我々の意識は大きく 変化したことは事実で、作品にも影響を与える こととなりました。突然やってくる自然災害、 今まで多くの人が関心を持たなかった為に起きた 原発事故や、その被害者、さらなる災害への 予測が考えられる日本そして地球への思い。 その中で、今多くの人々が予期せぬ生命の 危機を感じています。この、人生という旅の中で 一人ひとりがどういう舵取りをするのか、どこへ 向かって行くのか、そんな思いを込めて タイトルは「帰ル」にしました。絶望の後には 希望、苦しみの後には喜び、破滅の後には再生と 私は信じておりますが、皆さま方はそれぞれの 向かう舟の舳先をどこへ向けるのか? (初演時のご挨拶より)

Dance Medium 主宰 長岡ゆり

2014年2月7日(金) 開號19:30~ 2月8日(土) 開場:14:00~ 開場:19:00~

創作・振付: 長岡ゆり正朔

出演: 長岡ゆり正朔

点滅 小玉陽子 David

國貞幻矢 大友美佳 山田有浩

Choreography: Yuri Nagaoka, Seisaku

Performers: Yuri Nagaoka, Seisaku, Temmetsu, Yoko Kodama, David

Genya Kunisada, Mika Otomo, Arihiro Yamada, Kosuke Yoshizaki, Veronika

Dance Medium ホームページ: www.dancemedium.net と期ワークショップ:毎週木曜日19:00 - 21:30 講師:正朔、長岡ゆり 料金:2000円 場所:中野・中野坂上コア、変更がありますので、詳細はホームページか参加希望の方は長岡までご連絡ください

劇場: 東京・両国 シアターX 東京都墨田区両国2-10-14 両国シティコア 1階

チケット料金

予約·前売 3000円 当日 3500円 学生 2500円 学生当日 2700円

TheaterX (Tokyo, Ryagoku) Tokyo, Sumida-ku, Ryogoku 2-10-14 Ryogoku City Core bld. 1F 3 min from JR Ryogoku st. 5 min from Toei Oeda line Ryogoku st.

チケット予約 | Ticket reservation: medium0108@aol.com 090-3904-1032(長岡 | Yuri Nagaoka) www.dancemedium.info

Seisaku and Yuri Nagaoka Butoh Workshop: Every Thursday 19:00 - 21:30, Nakano st. | 2000 Pl

舞台監督: 上原雄志 照明: 清水義幸(カフンタ) 音響: 田中庸平 制作: 斎藤 朋 (マルメロ) 衣装: 竹内陽子 宣伝美術: Himmelsmechanii

正朔 Seisaku

1984年より土方巽に師事し、「東北歌舞伎計画」に出演。 故郡司正勝氏により正朔と命名。1996年まで『白桃房』 に在籍し、その主な作品に出演する。その後ソロ活動を 中心に「廃人倶楽部」シリーズ、実験公演 「吸い間」シリーズを継続し、コンテンポラリーダンス、 演劇への客演、演出助手なども行なう。 2004年、Dance Medium(長岡ゆり主宰)に参加し、 長岡ゆりと共に演出、振付も行ない、その全作品に出演、 ワークショップの指導も行なう。海外での活動も多い。 2012年、第43回舞踊批評家協会賞受賞。

Seisaku (born Fukushima) began butoh training under Tatsumi Hijikata in 1984. Following the death of Hijikata, he participated in Hakutobo's performances, and since 1997 he has continued to create solo and collaborative works for the stage. Since founding Dance Medium in 2004 with Yuri Nagaoka, Seisaku has continued his artistic activities, choreographing several dance works each year, and touring both in Japan and abroad. In 2012 he received the Japanese Dance Critic Association Award.

点滅 Temmetsu

1993年、土方巽記念アスベスト館にて舞踏を始める。 1996年、自らの舞踏グループ『赤色彗星館』を結成。 発表された本公演全七作品及び、ソロ三作品に作・演出・ 出演。またその間、継続作業として歩行者天国等に於ける 実験的路上公演も敢行。2005年、『赤色彗星館』を封印。 その後、ソロとして自らの舞踏作品を継続して発表する 傍ら、演劇への客演、スチール・映像作品の被写体として 占活躍。ドイツ、ロシア、韓国等の芸術フェスティバルへの 参加など、国内外を問わず活動している。今、もっともそ の活動が注目される舞踏家の一人。 temmetsu.com

Temmetsu began his butoh training at Asbestos Studio in 1993. In 1996 he founded the butoh group "Pavillion of Red Comet." which he continued to direct until 2005. Temmetsu has performed in international festivals in Germany, Russia and South Korea. He creates solo works, as well as collaborating with artists from various fields, such as theater, photography, and cinematography, temmetsu.com



長岡ゆり Yuri Nagaoka

幼少の頃より読書や妄想に耽る日々を経て10才にて開かれた身体を求めてモダンダンス、クラシックパレエなどを学ぶ。十代後半に舞踏に出会い衝撃を受けその衝撃とは何かを追求すべく舞踏の道を志す。
1993年より、ソロ、デュオ、美術家やミュージシャンとのコラボレーション、演劇への客演、映画出演などの活動を続ける。1998年より海外での公演活動を開始、欧州、アメリカ、韓国等で公演、ワークショップを行なう。
2004年、『Danee Medium』を立ち上げ、ワークショップ生を中心としたダンサーを指導、正朔と共に作品を創り定期公演を行なう。
2012年、第43回舞踊批評家協会賞受賞。

Yuri Nagaoka (born Tokyo) began training in ballet aged 10, and at 12 she joined the Hiraoka Shiga Dance Company where she trained in modern ballet. Since discovering butoh in her late teens, she has been active in choreographing and performing worldwide, traveling to South Korea, Hungary, Poland, Germany, France, United States and Mexico. In 2004 she acted in Masaki Iwana's film Shureitachi, which won the grand prix at Portobello Film Festival. In 2012 she received the Japanese Dance Critic Association Award.

小玉陽子 Yoko Kodama

1999年、演劇に出会う。 2004年、演劇公演「ハムレット」の中で 白痴のオフィーリア役を演じ、正朝、長岡ゆりに出会い、 初めて舞踏を踊る。その「感じる」という事にどこまでも 真摯な表現方法に惹かれ、以後、Dance Mediumの ワークショップに参加。メンバーとして公演に出演。 時空や存在を行き来し、呼応する身体を切に願い、 活動している。

Yoko began performing in the theater in 1999. She encountered butoh through a theater piece in 2004, and has since then remained fascinated. She performs with Dance Medium as well as creating solo works.

2011・3・11《東北大震災》のショックは様々なジャンルで取り上げられた。何十万人の死者を出し、被爆した広島・長崎の悲劇を経験した。第2次世界大戦"と比較される深刻な事態に、『帰ル』の舞台は50代を中心とした舞踏家 6 人が勇敢に飛び込み、半年の時間と入念な振り付けを繰り返し、阿鼻叫喚の哀切を、舞踏ならではの現代的で文字通りアクチュアルでコンテンポラリーな舞台に仕上げた成果は大いに注目しなければならないし、記録に留めておきたい。舞踏の創始者、土方巽の傑作『疱瘡譚』は、飢餓、天然痘、ライ病、原爆症などの《負の遺産》を凝縮させた、とてつもなく悲惨でかつ力強いメッセージを放つ舞台であるが、『帰ル』はそれとはまたテイストの違った秀逸な問題作だ。

いま世界は政治、経済などの世界的な混乱が拡大しているが、こうした時に不変のグランド・ヴィジョン(大きな視野)を我々は共有すべきだと思う。海や風、鳥や樹木、動植物など、人間以外の森羅万象がそうであるように、国境の無い、芸術・文化のジャンル、とりわけダンスこそがそうした分野をトータルにつなぎ、融合させる可能性が大きいと思われる。

舞踊評論家 古沢俊美

The Tohoku earthquake of March 11, 2011, was taken up as a theme among artists working in various genres. Kaeru was developed with 6 dancers over the period of half a year. Using butoh to deeply express the sorrow and confusion of the event, it nonetheless managed to avoid any sense of resignation or hopelessness. It recalled Tatsumi Hijikata's work The Story of Smallpox, through echoing the aria of "Baïlèro," and brought to mind Hijikata's words: "Tohoku is everywhere." Hijikata's performance had powerfully expressed the sense of tragedy in the "negative legacy" that remains in the event of starvation, small pox, leprosy, or radiation sickness, where Kaeru represents an excellent and challenging example of a very different performance. I hope that an enriched and larger scale revival of Kaeru will open the eyes of the world to the fact that this tragedy did not only occur in Japan, but represents a very real damage and risk to man. I strongly believe we need to share a world vision. This sort of dance represents the possibility of connecting all life, as an artistry that draws no boundaries between man and nature: the sea, the wind, birds, woods, and animals

> Toshimi Furusawa Dance critic





チケット料金

予約·前売 3000円 (advance) 当日 3500円 (on the door) 学生 2500円 (student advance) 学生当日 2700円 (student on the door)

お問い合わせ・予約

Dance Medium medium0108@aol.com tel: 090-3904-1032 (長岡)

マルメロ

marmeloyama@gmail.com tel: 03-5627-7583 fax: 03-5627-7584

プターX

tel: 03-5624-1181 fax: 03-5624-1166